

寒河江 設立4周年の地域スポーツ



曜日
金曜

寒河江市の総合型地域スポーツクラブ「アスポートさがえ」が来月、設立4周年を迎える。近年の健康ブームも手伝って登録会員は年々増え、2009年度は600人超。設立当初から市の運営補助金は受けたまま、支出が収入を上回らない健全運営を維持。ニーズに応じて未経験者も気軽に参加できるプログラムを増やしており、幅広い世代が交流しながらスポーツを楽しんでいる。

健全運営を維持

20コース 幅広い世代が交流



アスポートさがえのサークルで
バウンドテニスを楽しむ参加者
=寒河江市民体育館

在は20コースで、卓球や体操、を抑えていた。県体育協会
バウンドテニス、バドミントン、高齢者向けのいきいき健
康教室、子ども向けゴルフ、トレッキングなど多彩な内
容。会員の年齢層は未就学児から80代までと幅広い。去
年4月から参加している介護福祉士の女性(33)は「知ら
ないスポーツでも気軽に体験できる。いろいろな世代の人
と知り合い、交流できるのもいい」と話す。教室終了後
に参加者同士で食事をしたり、別の日に自主的に集
まつて汗を流すグループもあるという。

現在、プログラムの主会場となる市民体育館はほかの利用者もおり飽和状態。同公社は今後、プログラムの数を増やす、実施内容を充実させる方針だ。クラブの大沼修一課長は「1コース当たりの参加人数を増やす方針だ。クラブの事務局を務める同公社の大沼修一課長は「いずれは住民が総務、企画、指導のあらゆる面で携わるクラブになつてほしい。自主財源による自主運営が総合型地域スポーツクラブの目指す形」と期待を込める。

軌道に乗ってきたアスポートさがえ。住民の健康づくり、交流の機会としてだけではなく、少子化の中でスポーツ少年団や運動部に代わる活動の場にもなりうる。スポーツを通じた地域活性化、競技力アップのサポートなど、さまざまな可能性を模索してほしい。

同クラブは市体育協会、市体育指導委員会、市体育振興公社が設立母体となり、06年2月に発足。公社職員が事務局を担当している。市民体育馆などを会場に、通年のサークルと短期(2~3ヶ月)の教室を開き、いずれも週1回ペース。会費は1ヶ月(4回)42人、08年度501人、09年度626人と順調に増加。同公社は「年1回会員登録料を支払っている広報紙と口コミで徐々に市民に浸透してきた」と分析する。

設立当初は10コースのプログラムを設定。ニーズの高い種目を継続、新設し、人気の指導者を務めることで、運営費の多くを占める謝礼金(寒河江支社・五十嵐)

会員年々増え600人超